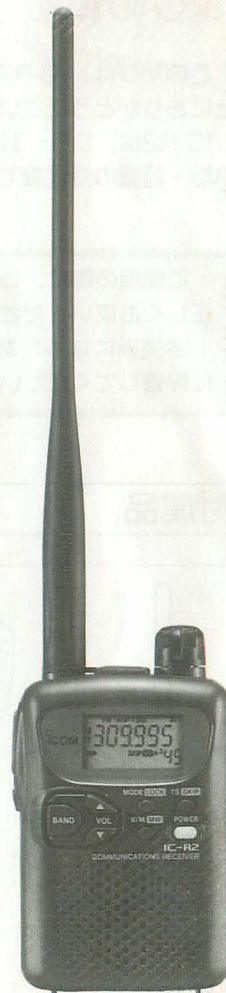
ICOM

取扱説明書

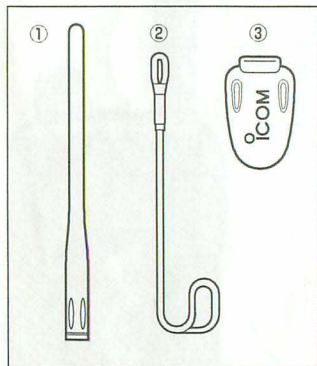
COMMUNICATIONS RECEIVER

IC-R2

Icom Inc.

はじめに

　このたびは、IC-R2をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
　IC-R2は、0.5～1300MHzの広帯域をカバーする、超小型・軽量の受信機です。

　ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
　お読みになったあとも、いつでも読めるように大切に保管してください。

付属品

①アンテナ……………………… 1
②ハンドストラップ………… 1
③ベルトクリップ…………… 1

- 取扱説明書
- 保証書
- 愛用者カード

目　次

目　次

1 安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

◎ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
◎次の『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 下記の注意事項を無視して誤った取り扱いをすると、「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **万一、煙がでている、変なにおいや音がするなどの異常状態のときは、そのまま使用しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
  すぐに電源を切り、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。
- **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **機器内部に線材、金属物、異物を入れないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **大きな音量で、ヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
  大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **引火性ガスの発生する場所では、使用しないでください。**
  火災、爆発の原因になります。

⚠注意 下記の注意事項を無視して誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの噴き出し口など、温度変化の激しい場所には置かないでください。**
  火災、変形、変色、故障の原因になります。
- **製品を落としたり、強い衝撃を与えたり、製品の上に物を乗せたりしないでください。**
  けが、故障の原因になります。
- **指定以外の別売品は、接続しないでください。**
  発熱、故障の原因になります。
- **水につけないでください。**
  本機は防滴構造を施していますが、水につけると、感電、故障の原因になります。
- **製品をベンジンやシンナーで、拭かないでください。**
  ケースが変質したり、塗装のはげる原因になります。

電波法上のご注意

◎電波法第58条で『**特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない**』と通信の秘密に関して定められています。
本機の取り扱いには十分配慮し、電波法を守ってください。

その他取り扱い上のご注意

- 付属のアンテナは、本機を手で持ったときに特性がよくなるように設計しています。
- 受信バンドや受信状況によっては、外部アンテナが効果的です。外部アンテナを使用するときは、テレビなどのアンテナや、電灯線から離して設置してください。
- 本機をほうり投げたり、アンテナを持って本機を持ち運ばないでください。
- 別売の充電器BC-127(ニカド電池付き)をお買い上げいただいたときは、充電器に添付の取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。

受信周波数についてのご注意

下記の周波数範囲外は、受信できません。

0.495 ~ 252.895MHz	415.100 ~ 809.895MHz
255.100 ~ 261.895MHz	834.100 ~ 859.895MHz
266.100 ~ 270.895MHz	889.100 ~ 914.895MHz
275.100 ~ 379.895MHz	960.100 ~1309.995MHz
382.100 ~ 411.895MHz	

受信周波数の詳細については、定格(☞53)をご覧ください。

お願いとおことわり

◎本機は、厳重な管理のもとに生産、出荷されていますが、万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡ください。

◎本機は広帯域受信機です。本機の内部発振(スプリアス)により、受信できなかったり、雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。

◇この取扱説明書は、予告なく変更することがあります。

◇本文の操作説明に使用している操作図や状態表示は、操作時の一例ですから、ご使用の機器の状態とは一致しないことがあります。

◇操作図の中でスイッチをふつうに短く押すときと、長く(0.5秒以上)押すときの区別を次のように表現しています。

→ 短く押すとき
→ 長く(0.5秒以上)押すとき

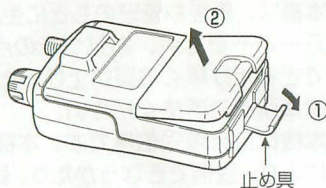
◇ビープ音(操作音)などは、出荷時の初期状態で説明していますので、運用中に設定を変更された場合は、説明と合わないことがあります。
なお、初期時と表現しているのは、工場出荷時またはオールリセット直後の設定状態をいいます。

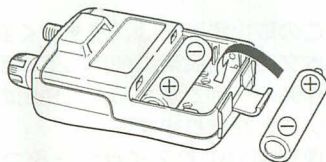
◇説明の中で(☞00)の表示は、その項目を詳しく説明した参照ページを示しています。

2 ご使用の前に

乾電池の交換のしかた

1.カバーをはずす

①電池カバーの止め具をはずし、②電池カバーを取りはずします。

2.電池を交換する

市販の単3形乾電池、またはN-3Uニカド電池が2本入ります。

〔ご注意〕**電池は、プラス⊕とマイナス⊖をまちがえないように注意して入れてください。**
乾電池は、種類、銘柄のちがうものや、新旧の電池を混ぜて使用しないでください。

◎乾電池の交換時期のめやす

アルカリ電池は、約18時間使用できます。
(受信1：待ち受け9の時間比で運用した場合)
テレビやラジオ放送を連続受信した場合、約8時間使用できます。
※乾電池の種類により、使用時間や性能がちがいますので、本機に最も適合しているアルカリ電池のご使用をおすすめします。

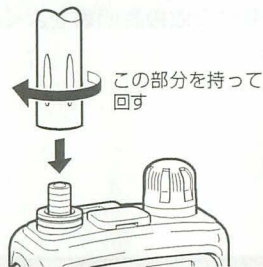
◎ニカド電池の交換時期のめやす

N-3Uニカド電池(☞52)は、約12時間使用できます。

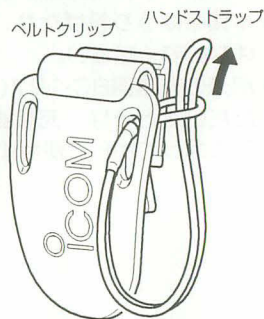
◆上記電池の残容量表示については、+9ページをご覧ください。

付属品の取り付けかた

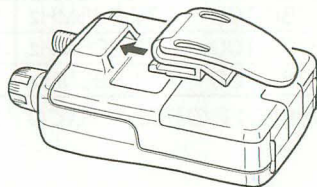
■アンテナの取り付け

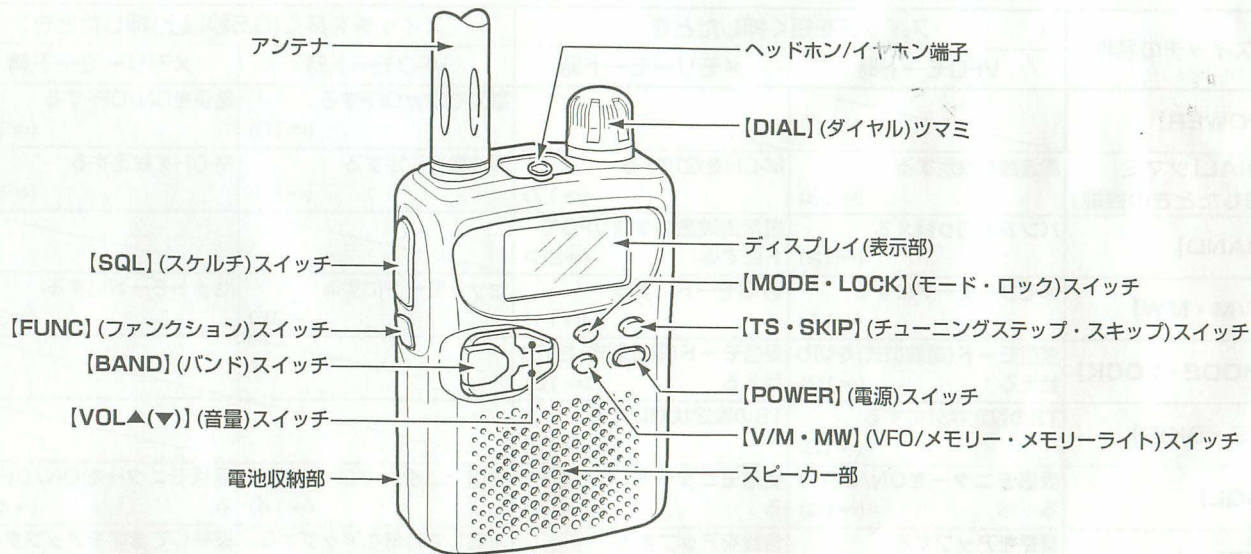
付属のアンテナでも十分に受信感度を得られますが、低い周波数帯や受信する場所により受信しにくい場合があります。
市販のアンテナを使用すると受信性能がさらによくなる場合がありますので、販売店にご相談ください。

アンテナはSMA型になっています。BNC接栓を使用される場合は、別売のAD-92SMAをご利用ください。

■ハンドストラップの取り付け

ベルトクリップの左右どちらかに取り付けてください。

運用時や持ち歩くときに、手首に通しておくと、落としたりしないで安全です。

■ベルトクリップの取り付け

本体背面の取り付け部に"カチッ"と音がするまではめ込んでください。

3-1 各部の名称

スイッチのおもな機能・操作については、
7～8ページをご覧ください。

3-2 スイッチの操作と機能

各スイッチは、短く押す操作、長く(0.5秒以上)押す操作、および【FUNC】(ファンクション)スイッチとの組み合わせで、各種の機能が設定できます。

また、運用モード(VFOモード/メモリーモードなど)により、機能がちがうこともあります。

1. スイッチを単独で押したときの機能

スイッチの名称	スイッチを短く押したとき		スイッチを長く(0.5秒以上)押したとき	
	VFOモード時	メモリーモード時	VFOモード時	メモリーモード時
【POWER】			電源をON/OFFする (☞10)	電源をON/OFFする (☞10)
【DIAL】ツマミ (回したときの機能)	周波数を設定する (☞13)	M-CHを設定する (☞17)	周波数を設定する (☞13)	M-CHを設定する (☞17)
【BAND】	バンドを切り替える (☞12)	表示周波数のままVFOモードにする (☞20)		
【V/M・MW】	メモリーモードにする (☞11)	VFOモードにする (☞11)	セットモードにする (☞35)	セットモードにする (☞35)
【MODE・LOCK】	受信モード(電波型式)を切り替える (☞12)	受信モード(電波型式)を切り替える (☞12)		
【TS・SKIP】	TSの設定状態にする (☞13)	TSの設定状態にする (☞13)		
【SQL】	受信モニターをON/OFFする (☞14)	受信モニターをON/OFFする (☞14)	受信モニターをON/OFFする (☞14)	受信モニターをON/OFFする (☞14)
【VOL▲】	音量をアップする (☞10)	音量をアップする (☞10)	連続して音量をアップする (☞10)	連続して音量をアップする (☞10)
【VOL▲】	音量をダウンする (☞10)	音量をダウンする (☞10)	連続して音量をダウンする (☞10)	連続して音量をダウンする (☞10)

2.【FUNC】と組み合わせて押したとき

【FUNC】(ファンクション)スイッチを押しながら、該当のスイッチを押すと、下記の機能になります。

なお、下2段は【DIAL】ツマミとスイッチを組み合わせて使用するときの機能です。

スイッチの名称	スイッチを短く押したとき		スイッチを長く(0.5秒以上)押したとき	
	VFOモード時	メモリーモード時	VFOモード時	メモリーモード時
【FUNC】+【DIAL】(ツマミ)	100k/1M/10Mステップの周波数アップ/ダウン(☞13)	回した方向にメモリーバンクを切り替える (☞17)	100k/1M/10Mステップの周波数アップ/ダウン(☞13)	回した方向にメモリーバンクを切り替える (☞17)
【FUNC】+【BAND】	VFOスキャンのスキャン種類設定状態にする (☞22)	メモリーバンク/フルスキャンの切り替え (☞28)		
【FUNC】+【V/M・MW】	書き込みをするM-CHの選択状態にする (☞18)	書き込みをするM-CHの選択状態にする (☞18)	VFOの内容をM-CHに書き込む (☞18)	他のM-CHの内容を選択したM-CHに移す (☞19)
【FUNC】+【MODE・LOCK】	キーロックをON/OFFする (☞49)	キーロックをON/OFFする (☞49)	M-CH選択状態のとき表示のM-CHをクリアする (☞20)	M-CH選択状態のとき表示のM-CHをクリアする (☞20)
【FUNC】+【TS・SKIP】	VFOスキャンのスキップスキャンのON/OFF (☞27)	M-CHにスキップを指定する (☞29)	VFOスキャン時にスキップ周波数を書き込む (☞27)	
【FUNC】+【SQL】	アッテネーターをON/OFFする (☞15)	アッテネーターをON/OFFする (☞15)		
【FUNC】+【VOL▲】	VFOスキャン〔アップ〕のスタート/ストップ (☞22)	メモリースキャン〔アップ〕のスタート/ストップ(☞22)	トーンスキャン〔アップ〕のスタート/ストップ (☞33)	トーンスキャン〔アップ〕のスタート/ストップ (☞33)
【FUNC】+【VOL▼】	VFOスキャン〔ダウン〕のスタート/ストップ (☞22)	メモリースキャン〔ダウン〕のスタート/ストップ(☞22)	トーンスキャン〔ダウン〕のスタート/ストップ (☞33)	トーンスキャン〔ダウン〕のスタート/ストップ (☞33)
【SQL】+【DIAL】(ツマミ)	スケルチレベルの設定状態にする (☞14)	スケルチレベルの設定状態にする (☞14)	スケルチレベルの設定状態にする (☞14)	スケルチレベルの設定状態にする (☞14)
【BAND】+【DIAL】(ツマミ)	回した方向にバンドを切り替える (☞12)	VFOモードにし、バンドを切り替える (☞12)	回した方向にバンドを切り替える (☞12)	VFOモードにし、バンドを切り替える (☞12)

- スイッチの機能は、VFOモードおよびメモリーモードのときの機能です。
  VFO/メモリーモード以外のときは、各種の機能説明で詳細を記述しています。
- 表の中のM-CHは、メモリーチャンネルのことです。TSは、チューニングステップのことです。

3-3 ディスプレイ(表示部)

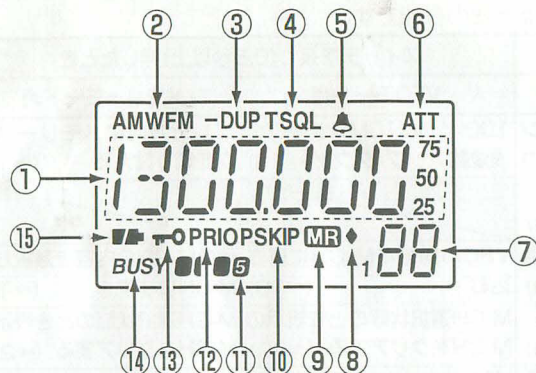



表　示	表　示　内　容
① 周波数表示部	使用する周波数を表示します。 セットモード時は設定内容を表示します。
② MODE表示部	受信モード(電波型式)を表示します。 AM/FM/WFMの3種類があります。
③ デュプレックス表示部	デュプレックスモードでの受信状態を表示します。
④ トーンスケルチ表示部	トーンスケルチでの待ち受け受信状態を表示します。

表　示	表　示　内　容
⑤ ベルマーク	ポケットビープ、プライオリティベルを設定したときに点灯します。
⑥ アッテネーター表示部	強力な信号を減衰させるアッテネーターが、動作していることを表示します。
⑦ メモリー表示部	メモリーチャンネル番号/セットモード項目などを表示します。
⑧ メモリーバンク番号表示部	メモリーバンク0～7の8グループを◆マークと数字の組み合わせで表示します。
⑨ メモリーモード表示部	メモリーモードになっていることを表示します。
⑩ スキップ表示部	メモリースキップ(SKIP)または周波数スキップ(PSKIP)を表示します。
⑪ Sメーター	受信信号の強さを表示します。
⑫ プライオリティ表示部	プライオリティスキャンが動作中のときに点灯します。
⑬ キーロックマーク	スイッチ操作を無効にするキーロック機能が"ON"のときに点灯します。
⑭ BUSY(受信)表示部	信号を受信しているとき、またはスケルチが開いているときに点灯します。
⑮ 電池マーク	電池の残容量を表示します。 残り少なくなるとマークが半分になり、さらに少なくなると点滅します。

4-1電源の“ON/OFF”と音量の調整

1.電源を入れる

【POWER】を少し長く(0.5秒以上)押します。

- “ピッ” 音が鳴り、電源が入ります。ディスプレイは、電源を切る前の状態を表示します。

◎**電源を切るときも、同じ操作をします。**

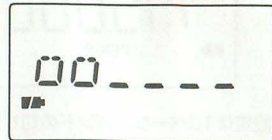
電源投入時の表示(初期時)

PSKIPの表示については(☞27)をご覧ください。

2.音量を調整する

【VOL▲】または【VOL▼】を押します。ディスプレイは音量レベルの表示になります。

- 押し続けると、連続動作になります。
- スイッチを押すごとにビープ音が鳴りますので、音量のめやすになります。

音量レベルの表示例

■音量レベルの表示について

【VOL▲】を押すと音量がアップします。
【VOL▼】を押すと音量がダウンします。

- 音量調整中は、32段階の音量レベルを7段階に分けて表示します。

表示	音量レベル
_ _ _ _ _ _	0（無音）
0_ _ _ _ _	1~11
★00_ _ _ _	12~18
000_ _ _	19~23
0000_ _	24~27
00000_	28~30
000000	31（最大）

★印は、初期時の設定

4-2 運用モード〔VFO/メモリーモード〕の切り替えかた

VFOモードとメモリーモードは、下記のように使い分けします。

1.VFOモード
【DIAL】ツマミで周波数を設定するモードです。
- VFOモードで設定した周波数を、**VFO周波数**といいます。
- VFOモードで行うスキャンを、**VFO(周波数)スキャン**といいます。(☞21)

2.メモリーモード
あらかじめ記憶させたメモリーチャンネルを呼び出して運用するモードです。
- メモリーモードで行うスキャンを　**メモリースキャン**といいます。(☞21)

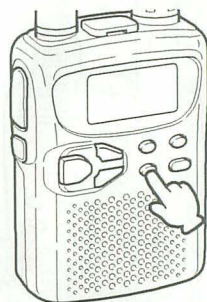
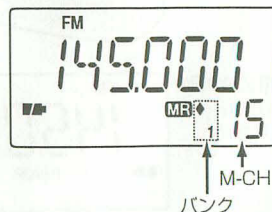
1.VFOモードにするには

【V/M】を押します。
- 1回押すごとにVFOとメモリーモードが切り替わります。
- 以後、**【DIAL】**を回すと、周波数の設定ができます。

VFOモードの表示例

周波数の設定は13ページ、バンドの切り替えかたは12ページをご覧ください。

2.メモリーモードにするには

【V/M】を押します。
- "MR" 表示とバンク表示およびチャンネル番号が点灯します。
- 以後、**【DIAL】**を回すと、メモリーチャンネルの切り替えができます。
- バンクの切り替えは、**【FUNC】**を押しながら**【DIAL】**を回します。

メモリーモードの表示例

メモリーの使いかたは、16ページをご覧ください。

4-3 バンド/受信モード(電波型式)の切り替えかた

■バンドについて

0.5～1300MHzの周波数間を10バンドに分けています。なお、テレビ放送音声専用バンドもあります。

バンドごとの周波数範囲と初期表示周波数は、次のとおりです。

( )内は初期周波数　単位MHz

バンド	周波数範囲
1Mバンド (1.620)	0.495～1.620
5Mバンド (5.000)	1.625～29.995
50Mバンド (51.000)	30.000～75.995
FMバンド (76.000)	76.000～107.750
AIRバンド (118.000)	108.000～135.975
VHFバンド (145.000)	136.000～252.895
300Mバンド (370.000)	255.100～379.895
UHFバンド (433.000)	382.100～769.750
800Mバンド (850.000)	769.800～914.895
1200Mバンド (1295.000)	960.100～1309.980
TVバンド (1CH)	1CH～62CH

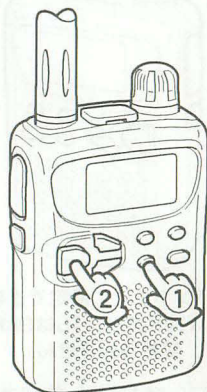
バンドの切り替えかた

1.アップ方向に切り替える

①【V/M】を押し、VFOモードにします。

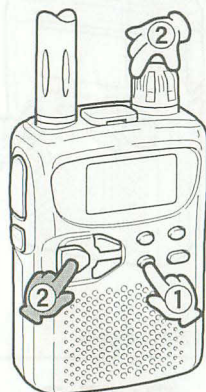
②【BAND】を押します。

- 1回押すごとに、バンドがアップ方向に切り替わります。

※メモリーモードで【BAND】を押すとVFOモードになります。

2. 両方向に切り替える

①【V/M】を押し、VFOモードにします。

②【BAND】を押しながら、【DIAL】を回します。

- 右に回すとアップ方向に、左に回すとダウン方向にバンドが切り替わります。

バンドの切り替えは、VFO(周波数)スキャン中でも有効です。ただし、バンドを切り替えたときスキャンを解除します。(☞26)

受信モードの切り替えかた

◎受信モード(電波型式)は、通常バンド(周波数)に合わせて自動的に切り替わります。

【MODE】を押します。

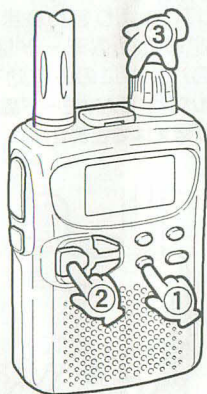
- 押すごとにFM/WFM/AM/AUTOが切り替わります。
- 設定した受信モードは運用中のバンドにのみ有効です。

※1MバンドはAMモード固定で、切り替えはできません。

VFO/メモリーモードに関係なく受信モードの切り替えができます。

4-4 周波数の設定とTSの切り替えかた

■周波数の設定のしかた

①【V/M】を押し、VFOモードにします。
②【BAND】を押し、目的の周波数に近いバンドにします。
③【DIAL】を回します。

- AUTO TS(自動チューニングステップ)により、バンドおよび電波型式に合ったステップで、周波数が変化します。

◆TS(チューニングステップ)を変えたいときは

①【TS】を押します。
TSの設定表示になります。
- 通常(初期時)は“AUTO”に設定しています。

TS設定の初期表示

②【DIAL】を回し、TSを選択します。
- 100/50/30/25/20/15/12.5/10/6.25/5kHzおよびAUTOが選択できます。

TSはバンドごとに設定できます。
※1Mバンドのみ、TSは9kHz固定で、変更できません。

③もう一度【TS】を押すと、周波数表示に戻ります。

TSの変更は、セットモードでもできます。**(☞36)**

◆周波数を大きく変えたいときは

【FUNC】を押しながら、【DIAL】を回します。
- 1MHzステップで周波数が切り替わります。(初期時)

この周波数ステップは、100kHzまたは10MHzステップに、セットモードで変更できます。
(ダイヤルセレクトの設定**☞36****)**

4-5 スケルチの設定と受信モニターのしかた

弱い信号を排除し、好みのレベル以上の信号だけを受信したり、初期設定レベルでは受信できない弱い信号を受信するのに効果があります。

初期時は、AUTO(オートスケルチ)に設定していますが、お好みによりスケルチレベルを9段階、または常にスケルチを開いた状態にするOPEN(オープン)のいずれかに設定できます。

スケルチはAUTOで最も開きやすくしていますが、レベル1～9の数値は小さいほど、弱い信号でも入感するようにしています。

■スケルチレベルの確認と変更のしかた

①【SQL】を押しながら【DIAL】を1クリック回すと、現在設定しているスケルチレベルの表示になります。
- 初期時は"AUTO"に設定しています。

②【SQL】を押しながら【DIAL】を回し、信号強度に合ったスケルチレベルに調整してください。

表示	スケルチレベル
OPEN	オープン(解放)
★AUTO	オート(自動)
LEVEL1	レベル1
LEVEL2	レベル2
LEVEL3	レベル3
LEVEL4	レベル4
LEVEL5	レベル5
LEVEL6	レベル6
LEVEL7	レベル7
LEVEL8	レベル8
LEVEL9	レベル9

★印は、初期時の設定

■受信モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に使用すると効果があります。

【SQL】を押している間、スケルチを開いて受信します。
左記スケルチレベル"OPEN"と同じ状態になります。

【SQL】スイッチの動作を、1回押すごとに"ON/OFF"するようにセットモードで変更できます。
(モニターホールド機能☞38)

4-6 受信のしかた〔例. FMラジオ 83.1MHzを受信するには〕

1. 70Mバンドを設定する

①【VM】を押し、VFOモードにします。

②【BAND】を押し、70Mバンドにします。
(初期表示:76.000MHz)

- 自動的にWFMになります。

70Mバンド初期周波数

2. 83.1MHzを設定する

③【DIAL】を回し、83.100 MHzを設定します。

【FUNC】+【DIAL】を回して1MHzステップも使うと、すばやく設定できます。(☞13)

83.100MHzを設定

3. 信号を受信すると

受信すると、ラジオ放送が聞こえてきます。

- "BUSY"表示点灯
- Sメーターが信号の強さに応じて振れます。

受信できなかったときは、スケルチレベルを変えてみると受信できることがあります。(☞14)

アッテネーターの使いかた

強力な信号を受信して、受信音がひずんで聞こえるときに、アッテネーター(ATT)機能で信号を減衰させることができます。

【FUNC】を押しながら【SQL】を押します。

- "ATT"表示が点灯し、アッテネーターが"ON"になります。
- 押すごとに、ON/OFFします。

受信信号を約10dB減衰します。

アッテネーターの表示

WFM ATT
83.100
PSKIP
BUSY

5-1メモリーモードについて

よく使用する周波数を、メモリーチャンネル(以下、M-CHと略記します)にあらかじめ記憶させておき、そのM-CHで運用するためのモードです。

本機のM-CHは、400CHあります。
M-CHを扱いやすくするため、下表のとおりバンク0～7の8グループに分けています。(1グループ：50CH)
そのグループ分けを**メモリーバンク**といいます。
1バンクには、00～49のM-CHを割り当てています。

バンク	M-CH	バンク表示	バンク	M-CH	バンク表示
バンク 0	00 ～ 49	MR ◆ 3 2 1	バンク 4	00 ～ 49	MR ◆ 3 2 1
バンク 1	00 ～ 49	MR ◆ 3 2 1	バンク 5	00 ～ 49	MR ◆ 3 2 1
バンク 2	00 ～ 49	MR ◆ 3 2 1	バンク 6	00 ～ 49	MR ◆ 3 2 1
バンク 3	00 ～ 49	MR ◆ 3 2 1	バンク 7	00 ～ 49	MR ◆ 3 2 1

• バンクの表示は、数字(1～3)と◆マーク(数字の4に該当する)の組み合わせで0～7を表しています。
※アミかけ部(表示のうすい部分)は点灯しません。

●バンクとM-CHの表示例

バンク-1 CH-00の表示例

FM 145.000 MR 1 00
CH-00
バンク-1

バンク-6 CH-49の表示例

■M-CHについて

• **初期時のM-CHは、各バンクともCH-00に145.000MHz、CH-01に433.000MHz、CH-02～49はなにも記憶していないブランクCHにしています。**
• **すべてのM-CHで周波数以外に、下記の内容を記憶します。**
①デュプレックスの"ON/OFF"とシフト方向(+/−)
②オフセット周波数
③トーンスケルチの"ON/OFF"とトーン周波数
④TS(チューニングステップ)
⑤受信モード(電波型式)
⑥スキップ指定

※M-CHのほかに、スキャン範囲設定用として25組のプログラムチャンネルがあります。(☞23)

■チャンネル〔M-CH〕表示モードについて
記憶したM-CHだけで運用するモードで、ディスプレイはチャンネル番号のみの表示になります。
チャンネル表示モードの操作については、41ページをご覧ください。

5-2 M-CH(メモリーチャンネル)の呼び出しかた

メモリーモードのときに【DIAL】を回すと、M-CHの呼び出しができます。
なにも記憶していないブランクCH(初期時はCH-02～CH-49)は呼び出しができません。
周波数の記憶しているM-CHだけを呼び出します。

メモリーモードのときに【FUNC】を押しながら、【DIAL】を回すと、バンクの選択ができます。
なお、バンクのあとにスキャン範囲設定用のプログラムチャンネルが選択できます。

〔例〕バンク5のCH-20を呼び出すには

1.メモリーモードにする

①**【V/M】**を押し、メモリーモードにします。

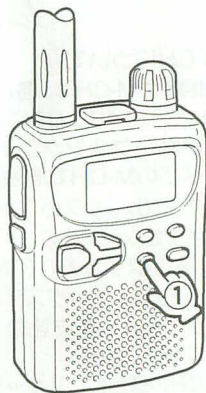
前回使用したM-CHを表示

2. バンク5を選択する

②**【FUNC】**+**【DIAL】**を回し、**バンクを5**にします。

バンク5の初期表示例

3. CH-20を呼び出す

③**【DIAL】**を回し、M-CHを20に設定します。

バンク5 CH-20の表示例

5-3 メモリー(書き込み)のしかた

〔例〕バンク1のCH-15に433.520MHzを書き込む

1. 433.520を設定する

①VFOモードにします。
433.520MHzを設定します。

2.M-CHの選択状態にする

②【FUNC】+【V/M】を押します。

- メモリー表示部が点滅し、M-CH選択状態になります。

※前回使用したM-CHを表示します。

M-CH選択状態(例)

3.バンク1 CH-15を選択

③【FUNC】+【DIAL】を回しバンク1にします。

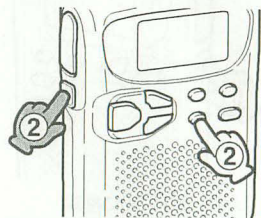
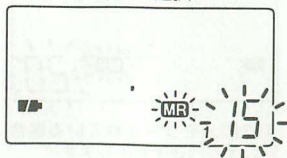
- このとき、プログラムCHやVFOの選択もできます。

④【DIAL】を回し、CH-15にします。

バンク1、CH-15選択

4.書き込みをする

⑤【FUNC】+【V/M】を約1秒(ピッピピが鳴るまで)押します。

- 書き込み後はVFOモードに戻ります。

書き込み後VFOモードになる

書き込み後のオートインクリメントについて

左記⑤【FUNC】+【V/M】を書き込み完了後も押し続ける(約2秒間、ピッピピ、ピーが鳴るまで)と、M-CHが1CHだけ自動的に繰り上がります。
M-CHに順次続けて書き込みをするときに便利です。

◎オートインクリメントの動作

【FUNC】+【V/M】を押し続けると、約1秒で書き込み完了

約2秒押し続けると、自動的にM-CHが繰り上がる

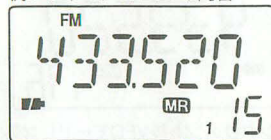
インクリメント後VFOモードになる

5-4 M-CHの内容を他のM-CHに複写するには

〔例〕バンク1のCH-15をバンク2のCH-20に複写するとき

1.CH-15を呼び出す

①【V/M】を押し、メモリーモードにします。
②【FUNC】+【DIAL】を回し、バンク1にします。
③【DIAL】を回し、CH-15にします。

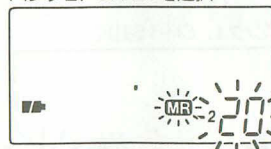
例.バンク1、CH-15の内容

2.M-CHの選択状態にする

④【FUNC】+【V/M】を押します。
- M-CH選択状態になります。

M-CH選択状態(例)

3.バンク2 CH-20を選択

⑤【FUNC】+【DIAL】を回し、バンク2にします。
⑥【DIAL】を回し、CH-20にします。

バンク2、CH-20を選択

すでにメモリーされている場合は、その内容を表示します。

4.書き込む(複写する)

⑦【FUNC】+【V/M】を長く(ピッピピが鳴るまで)押します。
- 書き込み後はメモリーモードを保持します。

バンク2、CH-20に複写

※バンク1、CH-15の内容は、そのまま残ります。

5-5 VFOモードからの書き込みについて

VFOモードで表示中の周波数をすばやくメモリーしたいときには、VFO周波数を直接M-CHに書き込むこともできます。

VFOモードで受信中に、メモリーしたい周波数のとき、**【FUNC】**+**【V/M】**を長く(ピッピピが鳴るまで)押します。

- 前回使用した(設定した)M-CHに書き込みます。

押し続けると、オートインクリメンタル(☞18)動作になります。

メモリー書き込み中の表示

前回使用していたM-CH

※前回の記憶内容を書き替えますので、ご注意ください。

5-6 M-CHの内容をVFOモードで使うには

使用しているM-CHの周辺の周波数を受信したいときなどに便利です。

M-CHで運用中に**【BAND】**を押します。

※**【V/M】**を押してもVFOモードになりますが、周波数は元のVFO周波数に戻ってしまいます。

5-7 メモリークリア(消去)のしかた

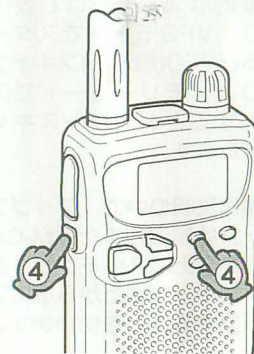
不要になったM-CHは、下記の操作で消去できます。

〔例〕バンク1のCH-3を消去するとき

①**【FUNC】**を押しながら、**【V/M】**を押し、M-CH選択状態にします。

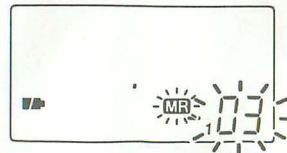
②**【FUNC】**+**【DIAL】**を回し、バンク1にします。

③**【DIAL】**を回し、**CH-3**にします。

④**【FUNC】**を押しながら、**【MODE】**を長く(ピッピピが鳴るまで)押します。

※消去後も選択状態が続きますので、連続して消去操作ができます。

消去後の表示

6 スキャンのしかた

6-1 スキャンについて

スキャンとは、周波数やM-CHを自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す自動選局機能です。
※一部の周波数は受信不可となっています。

基本的なスキャンは右表のとおり、VFOモードでスタートするとVFO(周波数)スキャンとなり、メモリーモードでスタートするとメモリースキャンになります。

- 操作説明の中で、アップスキャンは周波数またはM-CHを下から上にスキャンし、ダウンスキャンは上から下にスキャンすることをいいます。

■スキャンの種類とその内容について

スキャンの種類		動　　作	操作モード	参照
VFO(周波数)	プログラムスキャン	指定した周波数範囲だけをスキャンします。周波数範囲の指定は、25組(グループ)できます。	VFOモード	☞23
VFO(周波数)	バンドスキャン	運用中のバンド内をスキャンします。(各バンドの周波数範囲は☞12参照)	VFOモード	☞26
VFO(周波数)	フルスキャン	受信周波数範囲(0.495~1309.995MHz)のすべてをスキャンします。	VFOモード	☞26
メモリー	メモリーバンクスキャン	あらかじめ指定したメモリーバンク内をスキャンします。	メモリーモード	☞28
メモリー	メモリーフルスキャン	周波数を書き込んでいるすべてのM-CH(スキップCHを除く)をスキャンします。	メモリーモード	☞28
プライオリティスキャン		VFO周波数またはM-CHを聞きながら、プライオリティチャンネルを監視するスキャンです。	VFOモード メモリーモード	☞30
トーンスキャン		トーンスケルチで運用している局のトーン周波数を検知するスキャンです。	VFOモード メモリーモード	☞33

◎スキップ機能の付加：上記スキャン(トーンスキャンを除く)には、すべてスキップ(必要のない周波数またはM-CHはスキャンから除外する)指定ができます。

6-2 スキャンの基本的な操作について

1.スタート/ストップ操作

【FUNC】+【VOL▲】または【FUNC】+【VOL▼】を押します。

※【VOL▲】はアップスキャン
　【VOL▼】はダウンスキャン

- VFOモードでスタートするとVFO(周波数)スキャンとなり、メモリーモードでスタートするとメモリースキャンになります。

2.スキャン種類の設定

①【FUNC】+【BAND】を押すと、スキャン種類(範囲)の選択状態になります。
②【DIAL】を回してスキャンの種類を選択します。

VFOモード時

プログラムスキャン"P0"の選択

〜

PROG24 EG
プログラムスキャン"P24"の選択

バンドスキャンの選択

VFOフルスキャンの選択

メモリーモード時

メモリーフルスキャンの選択

BANK bS
メモリーバンクスキャンの選択

3.スキャン中のダイヤル操作

- スキャン中に【DIAL】を右に回すとアップスキャン、左に回すとダウンスキャンになります。
- 信号を受信して一時停止しているときに【DIAL】を回すとスキャンが再スタートします。

4.スケルチの調整について

通常スケルチレベルはAUTOにしていますが、受信信号の強さに応じて、スキャンが一時停止するように調整できます。

- 【SQL】+【DIAL】を回すと、スケルチレベルの調整ができます。(☞14)
  スキャン動作中では、調整が終わるとスキャンが再スタートします。

5.信号を受信すると

スキャン中に信号を受信すると、その周波数を約10秒間受信し、一時停止します。
信号受信中は、

- BUSY表示、Sメーターが点灯し、デシマルポイントが点滅します。
- 約10秒経過すると、自動的に再スタートしますが、**信号受信の時間設定や再スタートの条件は、セットモードで変更できます。**(☞39)

スキャン動作中の表示例

P SKIP表示は、プログラムスキャンのスキップ機能がONになっていることを示します。(初期時)
スキップの指定(☞27)

6-3 プログラムスキャン〔1〕スキャン範囲の設定のしかた

プログラムスキャンは、あらかじめプログラムチャンネル(スキャン範囲の上下エッジ周波数を設定するM-CH)に設定した周波数間をスキャンします。

プログラムチャンネル(CH)は、P0(PROG 0)～P24(PROG 24)の25組あります。

- P0～P24には、それぞれにAとBのM-CHがありますので、スキャンする上下のエッジ周波数を設定します。
- プログラムCHにエッジ周波数を設定する方法は、通常のM-CH書き込みと同じです。(☞18)
- スキャンの範囲は、同一バンド内でも、バンドをまたがって設定してもかまいません。

スキャン範囲の初期設定周波数

0A/0b：0.495～1300.000
1A/1b：144.000～146.000
2A/2b：430.000～440.000
3A/3b～24A/24b：ブランクCH

〔例〕スキャン範囲"P4"(4A/4b)に835.000～850.000MHzを設定する

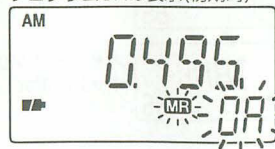
1. 835.000MHzを設定

①**【V/M】**を押し、VFOモードにします。
②**【BAND】**を押し、800Mバンドにします。
③**【DIAL】**を回し、835.000 MHzを設定します。

835.000MHzを設定

2. プログラムCHにする

④**【FUNC】**＋**【V/M】**を押し、M-CHの選択状態にします。
⑤**【FUNC】**＋**【DIAL】**を回し、プログラムCHの表示にします。(バンク7の次の表示)

プログラムCHの表示(初期時)

3. CH-4Aに書き込む

⑥**【DIAL】**を回し、CH-4Aにします。
⑦**【FUNC】**＋**【V/M】**を長く押します。
- CH-4Aへの書き込みが完了し、VFOモードに戻ります。

CH-4A書き込み中の表示

左記1～3と同様の操作で、CH-4bに850.000MHzを書き込みます。

4. 850.000MHzを設定

⑧【DIAL】を回し、850.000MHzを設定します。

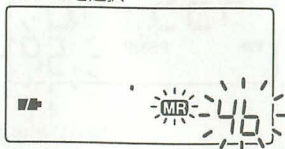
※【FUNC】+【DIAL】を使用すると、すばやく設定ができます。

850.000MHzを設定

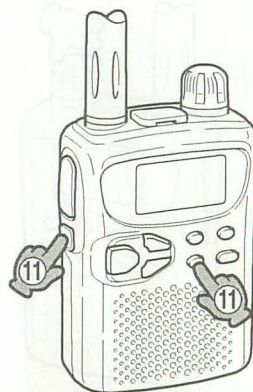
5. CH-4bを呼び出す

⑨【FUNC】+【V/M】を押すと選択状態になり、前回設定のCH-4Aを表示します。

⑩【DIAL】を回し、CH-4bにします。

CH-4bを選択

6. CH-4bに書き込む

⑪【FUNC】+【V/M】を長く押します。

- CH-4bへの書き込みが完了し、VFOモードに戻ります。

CH-4b書き込み中の表示

- CH-4A/4bのメモリー内容

以後、"P4" (PROG 4)を選択してスキャンすると、CH-4AとCH-4bの周波数間(835.000～850.000)をスキャンします。

- 1A/1bには、上限/下限周波数のどちらを書き込んでもかまいません。

※A/bのCHに同じ周波数を設定すると、スキャンしません。

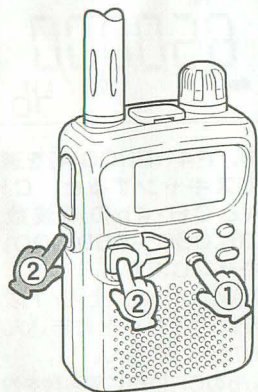
スキャン範囲は25組設定できますので、左記と同様の操作で他のスキャン範囲も設定してください。

〔2〕スキャン範囲(P0～P24)の指定のしかた

1. 範囲の設定状態にする

①【V/M】を押し、VFOモードにします。
②【FUNC】+【BAND】を押します。
- スキャン範囲の設定状態になります。
(前回のスキャン範囲を表示)

スキャン範囲設定状態の表示例

2. 範囲を選択する

③【DIAL】を回します。
- スキャン範囲(P0～P24)を選択します。

例.スキャン範囲“P15”を選択

3.スキャンのスタート

④【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押すと、選択した範囲のスキャンがスタートします。

スキャン動作中表示例

■スキャン中にスキャン範囲を切り替えたいときは

①【FUNC】+【BAND】を押します。
- スキャンが止まり、スキャン範囲の設定状態になります。

②【DIAL】を回し、スキャン範囲を選択します。
③【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押すと、選択した範囲のスキャンがスタートします。

スキャン範囲の選択操作では、“BAND”または“ALL”の選択もできます。
BAND/ALLについては、次ページをご覧ください。

6-4 バンドスキャン/フルスキャンのしかた

バンドスキャンおよびフルスキャンの指定は、プログラムスキャン範囲のあとに表示がありますので、スキャン範囲の選択操作と同じです。

前ページのスキャン範囲選択操作をし、“BAND”または“ALL”を　選択します。
- “BAND”を選択するとバンドスキャン、“ALL”のときはフルスキャンになります。

バンドスキャンの表示

フルスキャンの表示

1.バンドスキャンの操作

①スキャン範囲の選択操作をし、“BAND”を選択します。

②【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押します。
- スキャンがスタートします。スキャン前に運用していたバンド内をスキャンします。

スキャン中のバンド切り替え

①スキャン動作中に【BAND】を押します。
バンドが切り替わり、スキャンが止まります。スキャンしたいバンドにします。
②【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押します。
切り替えたバンドでスキャンがスタートします。

③もう一度②の操作をすると、スキャンを解除します。

2.フルスキャンの操作

①スキャン範囲の選択操作をし、“ALL”を選択します。

②【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押します。
- スキャンがスタートします。0.495～1309.995MHz間をスキャンします。

③もう一度②の操作をすると、スキャンを解除します。

6-5 周波数スキャンのスキップ指定のしかた

VFO(周波数)スキャン中、信号を受信して一時停止したときに、その周波数をスキャンの対象外にしたい場合、周波数スキップの指定ができます。

- "SKIP" を指定してメモリーに書き込むと、VFOスキャンのときに、そのM-CHに書き込まれた周波数をスキップ(スキャンしないで飛び越す)します。

周波数スキップスキャンをするとき、"P SKIP" をONに設定しておきます。(初期時はON)

スキップ周波数を書き込むときは、"P SKIP" がONでもOFFでもかまいません。

1.スキップ周波数の指定(書き込み)のしかた

①VFOモードにします。

②**【FUNC】+【VOL▲(▼)】**を押します。
VFO(周波数)スキャンがスタートします。
信号を受信して一時停止したとき、その周波数にスキップ指定をする場合は、

③**【FUNC】+【TS】**を長く(ピッ、ピピが鳴るまで)押します。
これでスキップ周波数を、M-CHの最上位のなにも記憶していないブランクCH(初期時はバンク7のCH-49)に書き込みます。

- 書き込みと同時にスキャンがスタートしますので、連続して書き込みができます。ブランクCHの上位から下位へ順に書き込みます。(バンクが満杯になると、次バンクへ移ります)

③書き込みの操作
スキャンが一時停止しているとき

スキャン一時停止の表示例

書き込み操作中の表示例

※初期時はバンク7、CH-49に書き込む

2. P SKIPのON/OFF

左記の操作でスキップ周波数を登録した後、周波数スキップスキャンをするときは、下記の操作で "P SKIP" をONにします。

初期時はONにしています。

①VFOモードにします。

②**【FUNC】+【TS】(SKIP)**を押します。

- 一回押すごとに "P SKIP" がON/OFFします。

P SKIPのON/OFF設定

"P SKIP" をONにしてVFOスキャンをすると、左記の操作で登録した周波数をスキップします。

6-6 メモリー〔バンク/フル〕スキャンのしかた

メモリースキャンとは、M-CHを順次切り替えて、信号を探し出すスキャンです。
メモリースキャンには、同一バンク内をスキャンするメモリー**バンクスキャン**と、バンクに関係なくすべてのM-CHをスキャンするメモリー**フルスキャン**があります。

■スタート/ストップ操作

①【V/M】を押し、メモリーモードにします。
②【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押すと、メモリースキャンがスタートします。

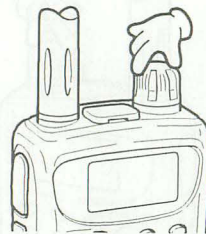
③もう一度②の操作をすると、スキャンを解除します。

バンクスキャン/フルスキャンを切り替えるには

1.スキャン選択表示にする
【FUNC】+【BAND】を押すと、スキャンの選択表示になります。

メモリースキャン選択表示(初期時)

2.バンク/フルを選択する
【DIAL】を回します。
- "BANK"にするとバンクスキャンができ、"ALL"にするとフルスキャンができます。

3.スキャンをスタートする
【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押します。
- 選択したスキャンがスタートします。

※バンクスキャンは、スキャンのスタート前に運用していたバンクになります。

6-7 メモリースキャンのスキップ指定

メモリースキャンから除外するM-CHに、スキップ指定をすると、メモリースキップスキャンになります。

スキップ指定には2種類あり、
- "SKIP" を指定すると、メモリースキャンのときに、そのM-CHをスキップします。
- "P SKIP" を指定すると、メモリースキャンでもVFOスキャンでも、指定のM-CHの周波数をスキップします。

1. M-CHを呼び出す

①**【V/M】**を押し、メモリーモードにします。
②**【DIAL】**を回し、スキップ指定をしたいM-CHを呼び出します。

例.CH-15を呼び出す

2. SKIP/P SKIPを指定する

【FUNC】+【TS】(SKIP)を押します。
- 1回押すごとに、"SKIP" → "P SKIP" → "OFF"(表示なし)と表示が切り替わります。

◎**スキップの解除**
上記の操作をして "SKIP" または "P SKIP" を消灯させてください。

6-8 プライオリティスキャンのしかた

■プライオリティスキャンについて

プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を知るためのスキャンです。
プライオリティスキャンには、下記の種類があります。

種　類	動　作　の　内　容
VFO周波数とM-CH	VFO周波数を受信しながら、指定M-CHの信号の有無をワッチ(監視)します。(☞31)
VFOスキャンとM-CH	VFOスキャンをしながら、指定M-CHの信号の有無をワッチします。(☞31)
VFO周波数とメモリースキャン	VFO周波数を受信しながら、スキャン中のM-CHを順次ワッチします。(☞32)
VFOスキャンとメモリースキャン	VFO/メモリーの両スキャンで信号をワッチします。(☞32)
TV(テレビ)-CHとM-CH	TV-CHを受信しながら、指定M-CHの信号の有無をワッチします。(☞43)

◎ワッチする周波数/M-CHは、約5秒ごとに1回(0.5秒以内)でワッチし、信号を検出すると他のスキャンと同様に一時停止します。ワッチする周波数/M-CHを、プライオリティCH(チャンネル)といいます。

◆ プライオリティベル機能について

上記のプライオリティスキャンをベル音で知らせる機能です。プライオリティCHで信号を受信したとき、"ピロピロピ"というベル音を鳴らし、ベルマークが点滅します。

•プライオリティスキャンのスタート時に、ベルのON/OFFが選択できます。

■スタート/ストップ操作について

各種のプライオリティスキャンのスタート/ストップ操作は下記のように共通しています。(スタート操作はセットモード)
ただし、プライオリティの種類により、スタート前に条件設定が必要ですから、それぞれの操作説明をお読みください。

①スタート前の条件を設定します。(種類別操作を参照)
②【V/M】を長く押し、セットモードにします。
③【DIAL】を回して、"PRIO"項目にします。
④【FUNC】+【DIAL】を回し、"ON"または"BELL"を選択します。

セットモードのPRIO項目にする

↓ ONを選択する

↓ またはベルを選択する

⑤【V/M】を押します。
•セットモードを解除して、プライオリティスキャンがスタートします。

◎プライオリティCHで信号を受信すると、一時停止します。
◎ベル選択時はベル音が鳴ります。
※一時停止の時間および再スタートの条件は、他のスキャンと同じです。(セットモードの設定条件)

ストップ操作

⑥【V/M】を押すとプライオリティスキャンを解除します。

〔1〕VFO周波数受信中にM-CHをワッチする

VFO周波数を聞きながら5秒に1回、特定のM-CHを瞬時ワッチします。

1.VFOとM-CHを設定する

①VFO周波数を設定します。
②ワッチしたいM-CHを設定します。
• ①と②の操作はどちらが先でもかまいません。

VFO周波数の設定(例)

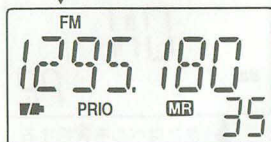
M-CHの設定(例)

• このプライオリティスキャンは、VFOモード/メモリーモードのどちらからスタートしても、同じ動作をします。

2.PRIOスキャンをスタート

③【V/M】を長く押し、セットモードにします。
④【DIAL】を回して、“PRIO”項目にします。
⑤【FUNC】+【DIAL】を回し、“ON”か“BELL”にします。
⑥【V/M】を押します。
• プライオリティスキャンがスタートします。

VFO周波数を受信しながら

5秒間に1回、M-CHを瞬時ワッチする

M-CHで信号を受信すると、一時停止する

⑦もう一度【V/M】を押すと、両スキャンを解除します。

〔2〕VFOスキャン中にM-CHをワッチする

VFOスキャンをしながら5秒に1回、特定のM-CHを瞬時ワッチします。

1.ワッチするM-CHをセット

①メモリーモードでワッチしたいM-CHを設定します。

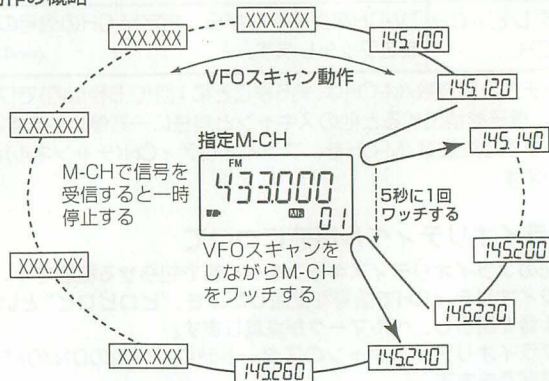
2.VFOスキャンをスタート

②VFOモードにします。
③【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押し、VFOスキャンをスタートさせておきます。

3.PRIOスキャンをスタート

④【V/M】を長く押し、セットモードにします。
⑤【DIAL】を回して、“PRIO”項目にします。
⑥【FUNC】+【DIAL】を回し、“ON”か“BELL”にします。
⑦【V/M】を押します。
• プライオリティスキャンがスタートします。

⑧もう一度【V/M】を押すと、両スキャンを解除します。

◎動作の概略

〔3〕VFO周波数受信中にM-CHを順次ワッチする

VFO周波数を受信しながら、5秒に1回M-CHを順次切り替えてワッチします。

1.VFO周波数をセットする

①VFOモードで受信する周波数を設定します。

2.メモリースキャンをスタート

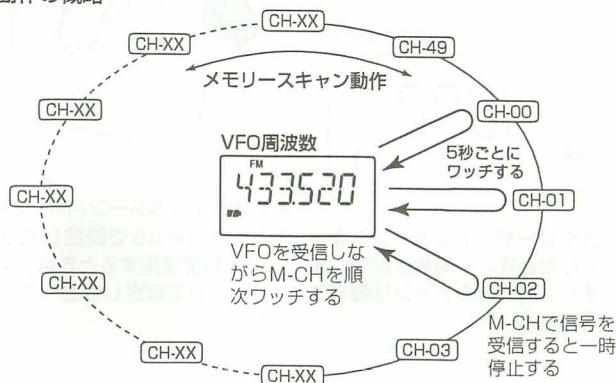
②メモリーモードにします。
③**【FUNC】**＋**【VOL▲(▼)】**を押し、メモリースキャンをスタートさせておきます。

3.PRIOスキャンをスタート

④**【V/M】**を長く押し、セットモードにします。
⑤**【DIAL】**を回して、**"PRIO"** 項目にします。
⑥**【FUNC】**＋**【DIAL】**を回し、**"ON"**か**"BELL"**にします。
⑦**【V/M】**を押します。
- プライオリティスキャンがスタートします。

⑧もう一度**【V/M】**を押すと、両スキャンを解除します。

◎動作の概略

CH-XX
CH-XX
CH-49
メモリースキャン動作
CH-XX
CH-00
VFO周波数
5秒ごとにワッチする
433.520
CH-XX
CH-01
VFOを受信しながらM-CHを順次ワッチする
CH-XX
CH-02
M-CHで信号を受信すると一時停止する
CH-XX
CH-03
CH-XX

〔4〕メモリー/VFO両スキャンでワッチする

メモリーとVFOの両スキャンで、信号をワッチします。

1.メモリースキャンをスタート

①メモリーモードにします。
②**【FUNC】**＋**【VOL▲(▼)】**を押し、メモリースキャンをスタートさせておきます。

**※必ずメモリースキャンを先にスタートさせてください。
VFOスキャンを先にスタートさせると、両スキャンは動作しません。**

2.PRIOスキャンをスタート

③**【V/M】**を長く押し、セットモードにします。
④**【DIAL】**を回して、**"PRIO"**項目にします。
⑤**【FUNC】**＋**【DIAL】**を回し、**"ON"**か**"BELL"**にします。
⑥**【V/M】**を押します。
- プライオリティスキャンがスタートします。

3.VFOスキャンをスタート

⑦**【FUNC】**＋**【VOL▲(▼)】**を押し、VFOスキャンをスタートさせます。
- 両スキャンによるプライオリティになります。

◎両スキャンがスタートすると、VFOスキャンをしながら、5秒間に1回M-CHをワッチします。
M-CHもスキャン動作していますので、順次切り替わります。
- VFO/M-CHのどちらで信号を受信しても、一時停止になります。

⑧もう一度**【V/M】**を押すと、両スキャンを解除します。

6-9 トーンスキャンのしかた

特定の周波数で運用されているトーンスケルチ通信の、トーン周波数を検知するスキャンです。

- トーンスキャンは、VFO/メモリーモードに関係なく動作します。

トーンスケルチの機能と使いかたは、45ページをご覧ください。

1.スタート操作

【FUNC】+【VOL▲(▼)】を長く(ピッ、ピーが鳴るまで)押します。

- トーンスキャンがスタートします。

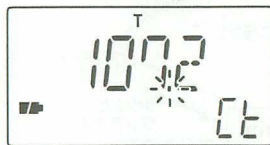
- スキャンがスタートすると、トーン周波数の表示に切り替わります。

スキャン中の動作

スキャン中に、スケルチが開いているときはゆっくりと、スケルチが閉じているときは速くスキャンします。

トーンが一致すると

一致したトーン周波数を検知すると、スキャンは約10秒間一時停止します。
このとき自局に設定していたトーンを、自動的に一致したトーンに書き替えます。

トーンスキャン一時停止の表示例

※メモリーモードでトーンスキャンしたとき、一時的に記憶しますが、M-CHのトーンは書き替えません。

2.ストップ操作

【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押します。

- スキャンを解除し、周波数表示に戻ります。

※スキャン前のトーン(トーンスケルチ運用☞45で設定したトーン)を再度使用するときは、セットモードで設定しなおしてください。

7-1セットモードの項目について

セットモードは、各種機能を使いやすくするために、運用条件をを変更するモードです。

- セットモードにはVFO/メモリーモード以外のチャンネル(M-CH)表示モード、およびTV-CH表示モードからも入れますが、それぞれの運用モードに関係のない項目は表示しません。

※1MバンドからセットモードIに入ったときは、「STEP」項目および「DUP」「OFF-SET」項目は表示しません。1Mバンドでは、TSおよびMODEは固定となっています。また、DUP機能は使用できません。

本機のセットモードは、初期項目と拡張項目に分けています。

- 通常は初期項目だけが設定できます。
- 拡張項目は、初期項目の最後の **"EXPAND"** 項目を **"ON"** にすると、設定ができます。操作のしかたは次ページをご覧ください。

1. 初期項目

下記の項目表示は、初期時【DIAL】を右に回したときの順序です。

表示	内容
STEP	チューニングステップ(☞36)
D SEL	ダイヤルセレクト(☞36)
PRIO	プライオリティスキャン(☞36)
BEEP	ビープ(操作)音(☞36)
LIGHT	バックライト機能(☞37)
EXPAND	初期項目/拡張項目の選択(☞37)

右記の拡張項目を設定するときは、この項目を "ON" にします。

初期項目は、"EXPAND ON" のとき、右図の順序に配置しています。

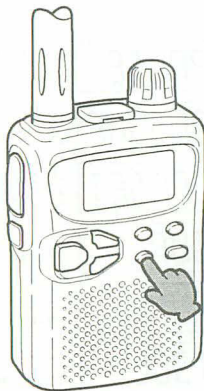
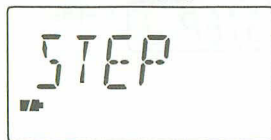
2. 拡張項目(EXPAND ON時)

下記の項目表示は、"EXPAND ON" の初期時、【DIAL】を左に回したときの順序です。

表示	内容
CH	チャンネル表示モード(☞37)
LOCK	キーロック(☞37)
SPEED	ダイヤルスピード(☞38)
MONI	モニターホールド機能(☞38)
P SAVE	パワーセーブ機能(☞38)
AP OFF	オートパワーオフ機能(☞38)
LIGHT	初期項目
BEEP	初期項目
PRIO	初期項目
PAUSE	スキャン一時停止タイマー(☞39)
RESUME	スキャンスタートタイマー(☞39)
OFFSET	オフセット周波数(☞39)
DUP	デュプレックスモード(☞39)
TONE	トーン周波数(☞40)
TSQL	トーンスケルチモード(☞40)
D SEL	初期項目
STEP	初期項目

7-2 セットモードの設定のしかた

1.セットモードにする

①【V/M】を長く(ピッ、ピーが鳴るまで)押します。
- セットモードになり、最初の項目を表示します。

セットモードの表示例

2.設定項目にする

②【DIAL】を回し、設定項目の表示にします。
- 表示は約1秒後、設定内容の表示に変わります。

項目表示例

3.設定内容を選択する

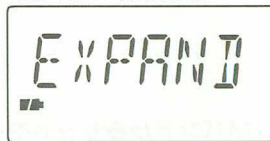
③【FUNC】+【DIAL】を回し、設定内容を選択します。

設定内容の表示例

拡張項目にするには

設定したい項目が拡張項目のときは、

(1)左記②の操作をして、"EXPAND"項目にします。
(2)左記③の操作をして、"ON"を選択します。
(3)以後②.③の操作で拡張項目を設定します。

"EXPAND" 項目にする

"ON" を選択する

4.セットモードの解除

④【V/M】を押します。
- 設定状態を保持して、周波数表示に戻ります。

7-3 設定項目の詳細について 《項目1〜6は初期項目、7〜18は拡張項目です》

設定表示例の上側が初期設定値です。

1. チューニングステップの設定 STEP

【DIAL】を回したときに、最小で変化する周波数間隔を設定する項目です。その周波数間隔をチューニングステップ(TS)といいます。
周波数を設定するときや周波数スキャンをするときに、目的の放送や通信に合わせて設定します。バンドごとに設定ができます。

AUTO：自動的に周波数に合わせたステップにする
100〜5：100/50/30/25/20/15/12.5/10/6.25 /5KHzのステップから選択する

AUTO tS
【FUNC】+【DIAL】
5.0 tS

運用の参照ページ(☞13)

2. ダイヤルセレクトの設定

周波数を大きく変える操作で、【FUNC】を押しながら【DIAL】を回したときの、周波数ステップを選択する項目です。

1M：1MHzステップにする
10M：10MHzステップにする
100k：100kHzステップにする

運用の参照ページ(☞13)

3. プライオリティスキャンの設定 PRIO

プライオリティスキャンの"ON/OFF"およびプライオリティベルを選択する項目です。

OFF：動作しない
ON：プライオリティスキャンにする
BELL：プライオリティチャンネルで信号を受信すると、ベル音を鳴らし、ベルマークの点滅で受信を知らせる

OFF PR
【FUNC】+【DIAL】
ON PR

運用の参照ページ(☞30)

4. ビープ音(操作音)の設定 BEEP

スイッチを押したときに出るビープ音(操作音)を"ON/OFF"する項目です。
※ポケットビープ(☞45)やプライオリティベル(☞30)は、このビープ音のON/OFFに関係なく動作します。

ON：ビープ音を鳴らす
OFF：ビープ音を鳴らさない

《項目7からは拡張項目》

設定表示例の上側が初期設定値です。

5. ディスプレイバックライトの設定　LIGHT

ディスプレイの照明を "ON/OFF" する項目です。
暗い場所や夜間の運用時など、周囲の明るさに応じて切り替えてください。

AUTO：電源を入れたとき、スイッチ操作をしたときに、約5秒間照明が点灯する
5秒間操作しない状態が続くと消灯する
ON　：常時点灯する
OFF　：点灯しない

AUTO LI
↕【FUNC】+【DIAL】
OFF LI

運用の参照ページ(☞49)

7. チャンネル表示モードの設定　CH

M-CHのチャンネル番号表示だけで運用ができる、チャンネル表示モードを "ON/OFF" する項目です。

OFF：チャンネル表示モードを使用しない
ON　：チャンネル表示モードを使用する

OFF CH
↕【FUNC】+【DIAL】
ON CH

運用の参照ページ(☞41)

6. 拡張項目のON/OFF設定　EXPAND

セットモードの拡張項目を設定するための項目です。

OFF：初期項目だけを表示する
ON　：初期項目と拡張項目を表示する

ご注意：項目7からの説明では、【DIAL】を左に回したときの順序で説明していますが、1～6の初期項目を省いています。
EXPANDをONにしたあとの項目の順序は、34ページのようになり、【DIAL】を右にまわすと、項目表示は逆回りになります。

OFF EX
↕【FUNC】+【DIAL】
ON EX

8. キーロック機能の設定　LOCK

【DIAL】およびスイッチの操作を無効にするキーロック機能を設定する項目です。
不用意に【DIAL】やスイッチに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

NORMAL：VOL/SQL以外をロックする
NO SQL　：SQL以外をロックする
NO VOL　：VOL以外をロックする
ALL　　　：すべてのスイッチをロックする

NORMAL LK
↕【FUNC】+【DIAL】
ALL LK

運用の参照ページ(☞49)

設定表示例の上側が初期設定値です。

9. ダイアルスピード機能の設定 SPEED

【DIAL】を速く回したときだけ、更にスピードアップするダイアルスピード機能を“ON/OFF”する項目です。
周波数を大きく変えたり、M-CHの切り替えがすばやくできます。

ON ：スピードアップする
OFF ：【DIAL】の回す速度に合わせる

運用の参照ページ(☞49)

10. モニター〔SQL〕ホールド機能の設定 MONI

【SQL】の機能(スケルチを開いて受信モニターをする)が、スイッチを押している間動作させるか、1回押すごとに“ON/OFF”させるかを切り替える項目です。

PUSH ：押している間だけスケルチを開く
HOLD ：1回押すごとにスケルチを“ON”にし、もう一度押すことにより“OFF”にする

運用の参照ページ(☞14)

11. パワーセーブ機能の設定 P SAVE

電源電池の消耗を防ぐためのパワーセーブ機能を“ON/OFF”する項目です。

AUTO ：待ち受け状態(送受信やスイッチ操作のない状態)が一定時間続くと、自動的にパワーセーブが動作する
OFF ：パワーセーブが動作しない

運用の参照ページ(☞49)

12. オートパワーオフ機能の設定 AP OFF

電源を切り忘れても、自動的に電源をOFFにするオートパワーオフ機能の“ON/OFF”を設定する項目です。
待ち受け時間(信号受信やスイッチ操作のない状態)が一定時間(下記の設定時間)続くと、自動的に電源を切ります。

OFF ：オートパワーオフ機能が動作しない
30 ：30分後に電源を切る
60 ：60分後に電源を切る
90 ：90分後に電源を切る
120 ：120分後に電源を切る

OFF AO
【FUNC】
+【DIAL】
120 AO

運用の参照ページ(☞49)

設定表示例の上側が初期設定値です。

13. スキャン一時停止タイマーの設定　PAUSE

スキャン中に信号を受信すると、スキャンが一時停止します。
設定時間だけ信号受信を続け、設定時間になると再スタートします。
設定時間内に受信信号がなくなると、次項13.スタートタイマーの設定時間後、再スタートします。

2～20：2～20秒のタイマーが設定できる
設定時間だけ信号を受信し、再スタートする
停止中に信号がなくなると、次項スタートタイマーの条件で再スタートする

HOLD：信号受信中は一時停止を続け、信号がなくなると再スタートする

10SEC PA

[FUNC]＋[DIAL]

HOLD PA

運用の参照ページ(☞22)

14. スキャンスタートタイマーの設定　RESUME

スキャンが一時停止中に信号がなくなったときの、再スタートタイマー(時間)を設定する項目です。

0　：信号がなくなると同時に再スタートする

1～5　：信号がなくなると1～5秒の各設定時間再スタートする

HOLD：信号がなくなっても一時停止状態を保持する(スタートはダイアル操作)

2SEC RE

[FUNC]＋[DIAL]

5SEC RE

運用の参照ページ(☞22)

15. オフセット周波数の設定　OFFSET

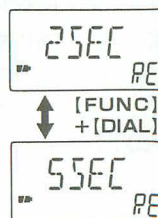
デュプレックス運用モードでの、オフセット周波数を設定する項目です。デュプレックス運用している2局間の周波数差を設定します。
オフセット周波数とは、2局間の通信で受信周波数から送信周波数へシフトする周波数差をいいます。バンドごとに設定ができます。

0～159.995MHzの範囲で設定できる

※1Mバンドでは設定できません。
※設定中にチューニングステップを変えたいときは、**セットモード**の中の **"STEP"** 項目にすると**TSを変更**できます。

0.000 OW

[FUNC]＋[DIAL]

159.980 OW

運用の参照ページ(☞47)

16. デュプレックス運用モードの設定　DUP

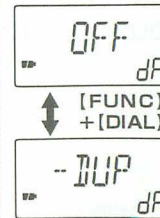
送信と受信とで、違った周波数を使用するデュプレックスモードで運用中の通信を、受信するための項目です。
バンドごとに設定ができます。

OFF　：デュプレックスを使用しない

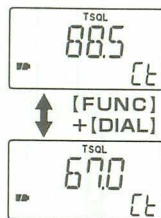
－DUP：設定周波数とオフセット分低くした周波数が受信できる

＋DUP：設定周波数とオフセット分高くした周波数が受信できる

※1Mバンドでは設定できません。

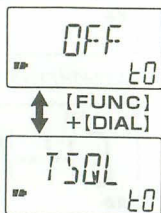
運用の参照ページ(☞47)

17. トーン周波数の設定 TONE

トーンスケルチ通信を受信するための、トーン周波数を設定する項目です。ポケットビープを使用する場合も同じです。
バンドごとに設定ができます。

67.0Hz～254.1Hzの50波の中から選択する
(トーン周波数→右表参照)

運用の参照ページ(☞45)

18. トーンスケルチ運用モードの設定 TSQL

トーンスケルチまたは、ポケットビープの運用モードを設定する項目です。

OFF　　：トーンを使用しない
TSQL　 ：トーンスケルチ運用モードにする
P BEEP ：ポケットビープ運用モードにする

運用の参照ページ(☞45)

■トーン周波数一覧表

単位：Hz

67.0	94.8	131.8	171.3	203.5
69.3	97.4	136.5	173.8	206.5
71.9	100.0	141.3	177.3	210.7
74.4	103.5	146.2	179.9	218.1
77.0	107.2	151.4	183.5	225.7
79.7	110.9	156.7	186.2	229.1
82.5	114.8	159.8	189.9	233.6
85.4	118.8	162.2	192.8	241.8
★88.5	123.0	165.5	196.6	250.3
91.5	127.3	167.9	199.5	254.1

◎★印は初期設定値です。なお、アマチュア無線のFM標準レピーターには、88.5Hzが使用されています。
◎トーンスキャン時は、上記トーン周波数が使用されている信号を検出します。

8 チャンネル〔M-CH〕表示モードの使いかた

チャンネル表示モードは、記憶したM-CHだけを運用するモードです。

周波数表示をなくし、CH番号を表示します。

使用できるスイッチや運用機能を制限していますので、操作が簡単になります。

- 書き込みをしたすべてのM-CHが使用できます。
  スキップCHも表示します。

CH表示モードの例

- 通常のメモリーモードと同様に、バンクおよびM-CHの切り替え操作ができます。
- チャンネル表示モードは、セットモードにして設定します。

チャンネル表示モードでは、メモリーフルスキャンができます。

※スキャンのスキップ指定はできません。

CH表示モードにするには

1. セットモードにする

【V/M】を長く押し、セットモードにします。

2. EXPAND ONにする

【DIAL】を回し、“EXPAND”項目の表示にします。

【FUNC】+【DIAL】を回し、“ON”を選択します。

3. CH項目をONにする

【DIAL】を回し、“CH”項目の表示にします。

【FUNC】+【DIAL】を回し、“ON”を選択します。

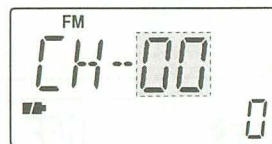
4. CH表示モードにする

【V/M】を押します。

- セットモードからチャンネル表示モードになります。

CH表示モード中のM-CH切り替え操作

■M-CHの切り替えかた

【DIAL】を回すと、M-CHの切り替えができます。

M-CHの切り替え

■バンクの切り替えかた

【FUNC】+【DIAL】を回すと、バンクの切り替えができます。

チャンネル表示モード中の各種の操作について(下記以外の操作はできません)

チャンネル表示モードでの操作のしかたはメモリーモードと同じですが、次の操作以外はできません。

音量の調整

【VOL▲】または**【VOL▼】**を押すと、音量の調整ができます。(☞10)

スケルチレベルの調整

【SQL】+【DIAL】を回すと、スケルチレベルの調整ができます。(☞14)

受信モニターの操作

【SQL】を押している間スケルチをオープンにし、受信モニターができます。(☞14)

アッテネーターのON/OFF

【FUNC】+【SQL】を押すと、アッテネーターのON/OFFができます。(☞15)

スキャンの操作

【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押すと、メモリースキャンのスタート/ストップができます。(☞28)

- スキャンはメモリーモードのフルスキャンと同じ動作になります。

セットモードの操作

セットモードは、チャンネル表示モードのON/OFF以外に**“LIGHT”**と**“BEEP”**項目だけが設定できます。

※LIGHT:バックライトの設定(☞37)
BEEP :操作音のON/OFF(☞36)

キーロックのON/OFF

【FUNC】+【LOCK】を押すと、キーロックのON/OFFができます。(☞49)

※チャンネル表示モードにする前に、セットモードで設定したスイッチをロックします。(☞37)

電源のON/OFF

【POWER】を押すと、電源のON/OFFができます。(☞10)

※電源をON/OFFしても、チャンネル表示モードを持続します。

■チャンネル表示モードを解除するときは

もう一度セットモードにして、**“CH”**項目を**“OFF”**にします。

9 TV〔テレビ〕-CHのバンドについて

TV CHバンドは、テレビ放送の音声周波数が受信できます。VHF(1～12CH)/UHF(13～62CH)局のすべてをカバーしています。

テレビ放送は、各地区により受信できる局が限られています。

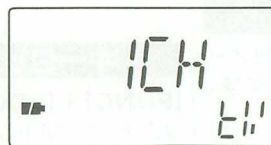
- 本機は、受信できる局だけを自動的に登録するTVバンドのスキップスキャン機能があります。(☞44)

1. TVバンドにするには

【BAND】を押し、バンドの切り替え操作をすると、TV-CHバンドにできます。

TV CHの表示例

2. TV-CHの切り替え

【DIAL】を回すと、CHの切り替えができます。
(初期時は1～12CHのみ)
【FUNC】+【DIAL】操作で、全CH(1～62CH)の切り替えができます。

■TVバンドのプライオリティースキャン

プライオリティスキャンは、TV-CHとM-CH間(TVバンドにするまえに運用していたM-CH)でスキャンします。

TVバンドでセットモードの"PRIO"を"ON"にします。

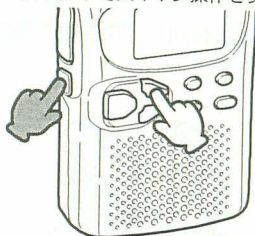
①【V/M】を長く押し、セットモードにします。
②【DIAL】を回し、"PRIO"項目の表示にします。
③【FUNC】+【DIAL】操作で、"ON"を選択します。
④【V/M】を押すと、プライオリティースキャンがスタートします。

受信できないTV-CHをスキップするには

受信が可能なCHだけを自動的に登録しますので、以後の操作が簡単になります。
TV-CHバンドにします。

TVバンドでスキャン操作をする

- 【FUNC】+【VOL▲(▼)】を押すと、1CHから62CHまでを1回だけスキャンして止まります。

このスキャンは信号受信で止まらずに、受信できないCHを検出し、自動的にスキップ登録します。

受信できないCHの表示例

◆以後、【DIAL】を回すと、受信ができるCHだけを表示します。(13〜62CHの受信できる局も表示します。)
ただし、【FUNC】+【DIAL】操作ではすべてのCHを表示します。

◎スイッチ操作で"SKIP"指定するには

SKIPのON/OFF指定の操作

①【FUNC】+【DIAL】を回し、指定するCHにします。
②【FUNC】+【TS】(SKIP)を長く押します。
"SKIP"がONになります。
押すごとにON/OFFします。

■テレビ放送〔音声〕周波数一覧表

単位：MHz

CH番号	周波数	CH番号	周波数	CH番号	周波数
VHF 1CH	95.75	UHF22CH	529.75	UHF43CH	655.75
2CH	101.75	23CH	535.75	44CH	661.75
3CH	107.75	24CH	541.75	45CH	667.75
4CH	175.75	25CH	547.75	46CH	673.75
5CH	181.75	26CH	553.75	47CH	679.75
6CH	187.75	27CH	559.75	48CH	685.75
7CH	193.75	28CH	565.75	49CH	691.75
8CH	197.75	29CH	571.75	50CH	697.75
9CH	203.75	30CH	577.75	51CH	703.75
10CH	209.75	31CH	583.75	52CH	709.75
11CH	215.75	32CH	589.75	53CH	715.75
12CH	221.75	33CH	595.75	54CH	721.75
UHF13CH	475.75	34CH	601.75	55CH	727.75
14CH	481.75	35CH	607.75	56CH	733.75
15CH	487.75	36CH	613.75	57CH	739.75
16CH	493.75	37CH	619.75	58CH	745.75
17CH	499.75	38CH	625.75	59CH	751.75
18CH	505.75	39CH	631.75	60CH	757.75
19CH	511.75	40CH	637.75	61CH	763.75
20CH	517.75	41CH	643.75	62CH	769.75
21CH	523.75	42CH	649.75		

**※上記周波数は、各バンドの周波数範囲にも含まれています。
MODE(電波型式)はWFM、TSは6MHzに自動設定しています。**

10 各種の交信を受信するために

10-1 トーンスケルチ通信を受信する

トーンスケルチについて

トーンスケルチは、送受信する局のトーン周波数が一致したときのみ通信ができるので、個別/グループ局の呼び出し、待ち受けに使用されています。
アマチュア無線、簡易業務用無線、特定小電力無線などの通信に利用されています。

- 通信している周波数およびトーン周波数に自局の設定をあわせると、トーンスケルチ通信が受信できます。

ポケットビープについて

上記トーンスケルチ機能で受信したとき、ビープ音で知らせる便利な機能です。
呼び出しを受けると、呼び出し音“ピロピロピロ”が30秒間鳴り続けるとともに、ディスプレイのベルマークが点滅します。

トーン運用モードおよびトーン周波数は、セットモードで設定します。

- バンド別に設定できます。

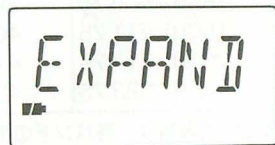
1.通信周波数に合わせる

【BAND】および**【DIAL】**で、バンド/周波数を設定します。

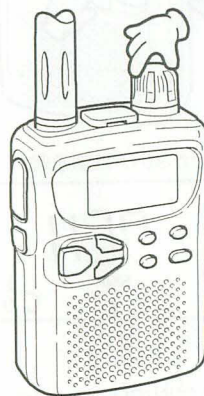
2.セットモードにする

【V/M】を長く押し、セットモードにします。

3.EXPANDをONにする

【DIAL】を回し、“EXPAND”項目にします。
【FUNC】+**【DIAL】**を回し、“ON”を選択します。

トーン運用モードを設定する

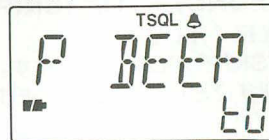
4.T SQL項目にする

【DIAL】を回し、“TSQL”項目にします。

セットモード“TSQL”項目

5.トーン運用モードを選択

【FUNC】+**【DIAL】**を回し、トーンスケルチまたはポケットビープを選択します。

トーンスケルチを選択

ポケットビープを選択

トーン周波数を設定する

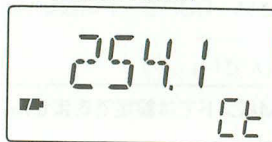
6. C TONE項目にする

セットモードを解除しないで、続けて操作します。
【DIAL】を回し、“TONE”項目にします。

セットモード“TONE”項目

7.トーン周波数を設定する

【FUNC】+【DIAL】を回し、トーン周波数を選択します。
※トーン周波数一覧表(☞40)

トーン周波数の設定例

8.受信状態にする

【V/M】を押すと、セットモードを解除して周波数表示に戻ります。

※交信中のトーン周波数がわからないときは、トーンスキャンを行い、トーン周波数が一致すると受信ができます。(☞33)

トーン通信を受信すると

◎トーンスケルチがONのとき

受信するとスケルチが開き、通信している局の音声が聞こえます。

◎ポケットビープがONのとき

受信するとベルが約30秒間鳴り続け、ベルマークが点灯します。
【VOL】以外のスイッチを押すと、ベルが止まり、ベルマークが消灯します。

※隣接したトーン周波数を使用している局がいると、トーンスケルチが開くことがあります。

10-2 デュプレックス通信を受信する

デュプレックスとは

デュプレックス通信とは、送信と受信で違った2つの周波数を使用して交信する方式です。

- 430MHz/1200MHz帯のアマチュア無線用FMレピータシステムや各通信分野で広く利用されています。

本機にデュプレックスモードを設定すると、ワンタッチの切り替え操作で、送信/受信両方の周波数が受信できます。

デュプレックス通信を受信するときは、**オフセット周波数**の設定も必要です。

オフセット周波数とは

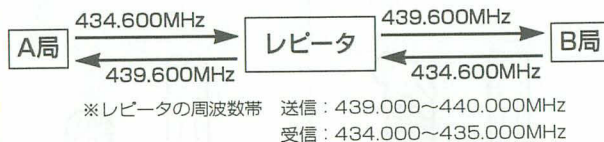
デュプレックス通信で、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

デュプレックスモードおよびオフセット周波数は、セットモードで設定します。

〔例〕430MHz帯のレピータ交信を受信するには

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局の交信を可能にしたり、通信範囲(通信距離)を拡大させるための、自動無線中継装置のことです。

●レピータ交信の概略と周波数例

※レピータの周波数帯　送信：439.000~440.000MHz
　　　　　　　　　　　受信：434.000~435.000MHz

◎通常、アマチュア無線で運用されている430MHz帯のレピータ交信は、オフセット周波数を5.000MHzに設定しています。
レピータは、送信されてくる434.600MHzを受信すると、自動的に439.600MHzの周波数に変換して送信します。

◎本機で上記通信を受信するには、デュプレックス運用モードとオフセット周波数5.000MHzの設定が必要です。(430Mバンドは、レピータ受信用に5.000を初期設定しています)
なお、デュプレックス運用モードは次のように設定します。

- 本機の表示(受信)周波数を439.600MHz(レピータの送信周波数)に設定したときは－DUPモードに、434.600MHz(レピータの受信周波数)に設定したときは＋DUPモードに設定してください。

操作方法については、右欄をご覧ください。

ご注意：デュプレックスモードは、1Mバンドでは設定できません。

1.レピータ送信周波数を設定

①【V/M】を押し、VFOモードにします。
②【BAND】を押し、430Mバンドにします。
③【DIAL】を回し、439.600MHzを設定します。

2.EXPANDをONにする

④【V/M】を長く押し、セットモードにします。
⑤【DIAL】を回し、“EXPAND”項目にします。
⑥【FUNC】＋【DIAL】を回し、“ON”を選択します。

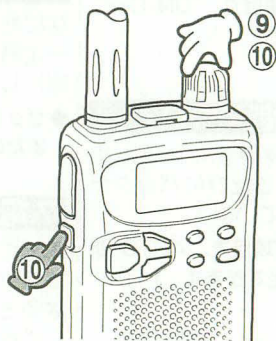
EXPAND項目をONにする

3. －DUPを選択する

⑦【DIAL】を回し、"DUP" 項目にします。
⑧【FUNC】+【DIAL】を回し、"－DUP" を選択します。

－DUPにする

4.オフセット周波数を設定

⑨【DIAL】を回し、"OFFSET" 項目にします。
⑩【FUNC】+【DIAL】を回し、"5.000" MHz にします。
※430Mバンドのみ初期設定を "5.000" にしています。

※設定中にTSを変更したいときは、セットモードでできます。(☞36)

OFFSETを5.000に設定

5. デュプレックス受信状態にする

⑩【V/M】を押し、セットモードを解除します。
- デュプレックスモードになり、439.600MHzの受信状態になります。

6. デュプレックス通信の両周波数を受信するには

【SQL】を押します。
押している間、5.000MHz低い434.600MHzに表示が変わり、受信状態になります。
※【SQL】は "－DUP" モードのとき、オフセット周波数分低い周波数にし、"＋DUP" モードのときは高くして受信します。

【SQL】を押すとオフセット分変化した周波数で受信できる

FM －DUP
434.600
BUSY

※【SQL】を押したとき、本機の持つ周波数範囲以外になると、"ブッ" 音が鳴り、周波数表示は変化しません。

■デュプレックスを解除するときは
セットモードにして、"DUP" 項目を "OFF" にします。

11 その他の便利な機能

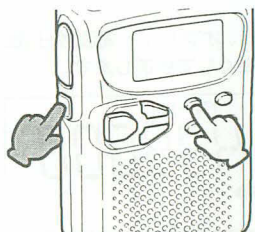
1.キーロック機能について

不用意に【DIAL】やスイッチに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにするためにキーロック機能があります。

〔操作方法〕

【FUNC】+【LOCK】(MODE)を押します。

• キーマーク表示が点灯します。

以後、【VOL】【SQL】以外のスイッチ操作が無効になります。

◆セットモードのLOCK項目で、無効にするスイッチを選択できます。(☞37)

【FUNC】+【LOCK】は1回押すごとにキーロック機能が **"ON/OFF"** します。

2.ビープ音(操作音)について

スイッチを押したときに、その操作が有効か無効かを、下記のようにビープ音で知らせています。

◎ビープ音の種類

"ピッ"　：短く押すスイッチ操作が正しいとき
"ピッ、ピー"　：長く押すスイッチ操作が正しいとき
"プッ"　：スイッチ操作が無効のとき
"ピッ、ピピ"　：メモリー書き込み操作が正しいとき

◆セットモードのBEEP項目で、"ON/OFF"が設定できます。(☞36)

3.バックライト機能について

ディスプレイ表示を見やすくするために、スイッチ操作をするたびにバックライト(照明)を点灯させています。

◆セットモードのLIGHT項目で、"AUTO"または"ON/OFF"が設定できます。(☞37)

4.ダイアルスピード機能について

【DIAL】をゆっくり回しているときは、設定したTS(周波数ステップ)で動作します。速く回したときに、周波数またはM-CHを、ダイアルの速度以上にすばやく切り替える機能です。

◆セットモードのSPEED項目で、"ON/OFF"が設定できます。(☞38)

5.オートパワーオフ機能について

なにも操作しない状態(受信もしない)が一定時間続くと、自動的に電源を"OFF"にする機能です。電源の切り忘れによる電池の消耗を防ぎます。

◆セットモードのAP OFF項目で、自動的に電源を切る時間が設定できます。(☞38)

6.パワーセーブ機能について

なにも操作しない状態(受信もしない)が一定時間続くと、自動的に機器を休止状態にし、電池の消耗を防ぐ機能です。

◆セットモードのP SAVE項目で、"AUTO"または"OFF"の設定ができます。(☞38)

7.電池残量表示機能について

電池の残容量が残り少なくなると、電池マークが半分になります。さらに少なくなると、"ピーピロ"の警告音を2回鳴らして点滅に変わります。

電池の残容量が少なくなったとき

点滅しはじめると、すぐに使えなくなりますので、乾電池は新品と交換、ニカド電池は充電してください。

リセット操作のしかた〔初期状態に戻すには〕

M-CHの内容やセットモードの設定をすべて初期状態に戻したいときは、オールリセットができます。
また、まちがった操作をしてわからなくなり、操作をはじめからやり直したいときなどは、パーシャルリセットがあります。

◆リセット操作後の内容

リセット項目	オール	パーシャル
運用モード	VFOモード	VFOモード
バンド/表示周波数	FM145.000	FM145.000
M-CHの内容	**初期化する**	**保存**
M-CHの番号	CH-00	変わらない
セットモードの内容	初期化する	初期化する

※リセット操作をすると、上記のように初期化しますので、リセット後に必要なデータはノートなどに控えておき、再設定してください。

- **オールリセットは、M-CHの内容を初期設定値に戻します。**
- **パーシャルリセットは、M-CHの内容を初期化しないで、保存します。**

■オールリセットのしかた

いったん電源を切ります。
【FUNC】と**【BAND】**と**【V/M】**を押しながら、**【POWER】**を押して電源を入れます。
- “CLEAR”を表示し、電源が入ります。

“CLEAR”を表示しなかったときはもう一度やり直してください。

リセット後の表示

■パーシャルリセットのしかた

いったん電源を切ります。
【FUNC】と**【V/M】**を押しながら、**【POWER】**を押して電源を入れます。
- “CLEAR”は表示しません。

リセット後の表示

13 故障かな？と思ったら

下表にあげた状態は、故障ではありません。修理に出す前にもう一度点検してください。
それでも異常があるときは、弊社各営業所のサービス係まで、その状態を具体的にご連絡ください。

状態	原因	処置	参照
○電源が入らない	◎電池の接触不良 ◎電池の極性まちがい ◎電池の消耗	●電池および電池収納部の端子を清掃する ●極性を確認して、電池を入れなおす ●乾電池を入れ替える(ニカド電池は充電する)	☞5 ☞5 ☞5
○スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている	●【VOL▲】で音を大きくする	☞10
○感度が悪く、強い信号しか聞こえない	◎スケルチレベルをAUTO以外に設定している ◎アッテネーターをONにしている	●【SQL】+【DIAL】でスケルチレベルを設定しなおす ●アッテネーターをOFFにする	☞14 ☞15
○受信音が弱い、ひずむ、雑音が多いなど正常でない	◎周波数が合っていない ◎電波型式が合っていない ◎電池の消耗 ◎建物や乗り物の中で使用している	●最小のTSにして、周波数を設定しなおしてみる ●電波型式を変えてみる ※AM、FM、WFM以外の電波は受信できない ●乾電池を入れ替える(ニカド電池は充電する) ●窓際で聞く、または外部アンテナを使用する	☞13 ☞12 ☞5 ☞4
○周波数の設定ができない	◎キーロックになっている ◎メモリーモードになっている	●【LOCK】でキーロックを解除する ●【V/M】でVFOモードにする	☞49 ☞11
○異常な表示や動作になる	◎CPUが誤動作している ◎静電気などの外部要因 ◎電池の消耗(極端に減少したとき)	●リセットする ●電源を切り、電池を装着しなおす ●乾電池を入れ替える(ニカド電池は充電する)	☞50 ☞5 ☞5
○セットモード中に、設定したい項目にならない	◎EXPANDをOFFにしている ◎チャンネル(M-CH)表示モードまたはTV-CHバンドになっている	●EXPANDをONにする ●モードまたはバンドを設定しなおす ※左記の状態ではセットモードの項目を限定している	☞35 ☞41 ☞43
○ディスプレイが点滅し、ピッ音が続き、電源OFFにできない	◎電池の容量がなくなる直前になっているため	●乾電池を入れ替える(ニカド電池は充電する) ※点滅状態のままで交換する	☞5

故障のときは

● **保証書について**

保証書は、販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● **修理を依頼されるとき**

「故障かな？と思ったら(☞51)」にしたがって、もう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● **アフターサービスについてわからないときは**

お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

弊社各営業所のお問い合わせ先は、この取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

オプション(別売品)について

本機には、下記のオプションが使用できます。

- BC-127 ：単三形ニカド電池用充電器（N-3Uニカド電池2本付き）
- LC-146 ：キャリングケース
- AD-92SMA ：SMA-BNC変換アダプター
- SP-13 ：イヤホン
- HP-4 ：ヘッドホン
- OPC-474 ：クローンケーブル(下記参照)

■OPC-474クローンケーブルについて

クローンとは、1台のIC-R2に設定したメモリー内容やセットモードの設定内容を、他のIC-R2に送出し、同じ設定内容にする機能です。

□クローンのしかた

1.右図のようにOPC-474で接続します。

2.子機(クローン受信側)の電源をONにします。

3.親機(送出側)の操作

【▲】+【V/M】+【TS】を押しながら電源を入れます。
“**CLONE**”を表示します。
【SQL】を押します。
“**CL OUT**”を表示し、設定内容を送出します。

以上でクローンが完了です。

◎クローンには上記本体間クローンの他に、パーソナルコンピューター(PC)でクローンする方法があります。
PCクローンとしてCS-R2(クローンソフト：英語版)がありますので、販売店におたずねください。

定　格

一般仕様

周波数動作範囲：0.495～1309.995MHz（一部周波数を除く）
受信周波数範囲：0.495～1309.995MHz以内で右表周波数の範囲内
電波型式：F3(FM)、WFM、AM
アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡
アンテナ端子：SMA型
電源電圧：DC3V 標準（動作範囲DC2.1～3.5V）
接地方式：マイナス接地
消費電流：受信定格出力時 170mA　待ち受け時100mA Typ.
パワーセーブ(1：4)時 41mA Typ.
使用温度範囲：－10～+60℃
周波数安定度：±6ppm Max.（0～+50℃）
外形寸法：58(W)×86(H)×27(D)mm（突起物を除く）
重量：約170g（アンテナ、乾電池2本含む）

受信部

受信方式：トリプルスーパーヘテロダイン
中間周波数：1st 266.7MHz　2nd 19.65MHz
3rd 450kHz
選択度：AM/FM 15kHz以上/－6dB　30kHz以下/－60dB
WFM 150kHz以上/－6dB
受信感度：(FM/WFM 12dB SINAD　AM 10dB S/N)

FM：(Typ.値)

周波数	感度	周波数	感度
30.000～117.995	-14dBμ	430.000～450.000	-13dBμ
118.000～174.995	-15dBμ	450.005～469.995	-12dBμ
175.000～246.995	-13dBμ	470.000～749.995	-11dBμ
247.000～329.995	-13dBμ	750.000～799.995	-11dBμ
330.000～379.995	-12dBμ	800.000～999.995	-11dBμ
380.000～429.995	-12dBμ	1000.000～1300.000	-7dBμ

WFM：76.000～108.000/175.000～221.995　-3dBμ Typ.
470.000～770.000　0dBμ Typ.
AM：0.495～5.000　2dBμ Typ.
5.005～30.000　-2dBμ Typ.
118.000～136.000/222.000～246.995　-4dBμ Typ.
247.000～329.995　-3dBμ Typ.

■受信周波数範囲とMODE/TS一覧表（AUTO設定時）

バンドの区別	周波数範囲(MHz)	MODE	TS(kHz)
1Mバンド	0.495～1.620	AM	9.0
5Mバンド	1.620～29.995	AM	5.0
50Mバンド	30.000～35.525	FM	10.0
	35.530～50.995	AM	5.0
	51.000～53.995	FM	20.0
	54.000～75.995	FM	5.0
FMバンド	76.000～89.985	WFM	100.0
	90.000～107.995	WFM	6.0(MHz)
AIRバンド	108.000～135.995	AM	25.0
VHFバンド	136.000～143.995	FM	10.0
	144.000～145.995	FM	20.0
	146.000～155.995	FM	10.0
	156.000～175.745	FM	25.0
	175.750～221.750	WFM	6.0(MHz)
	221.800～250.995	AM	100.0
	251.000～252.895	FM	12.5
300Mバンド	255.100～261.895	AM	100.0
	266.100～270.895	AM	100.0
	275.100～335.995	AM	100.0
	336.000～379.895	FM	12.5
UHFバンド	382.100～411.895	FM	12.5
	415.100～429.995	FM	12.5
	430.000～439.995	FM	20.0
	440.000～475.745	FM	12.5
	475.750～769.755	WFM	6.0(MHz)
800Mバンド	769.800～809.895	FM	12.5
	834.100～859.895	FM	12.5
	889.100～914.895	FM	12.5
1200Mバンド	960.000～1259.995	WFM	25.0
	1260.000～1309.995	FM	20.0

操作の早見表

◎スイッチ操作欄の前にⓋ印があればVFOモード、Ⓜ印があればメモリーモードにして操作してください。

操作の内容	スイッチ操作	参照
VFO/メモリーの切り替え	【V/M】	☞11
バンドの切り替え	【BAND】or【BAND】+【DIAL】	☞12
周波数の設定	Ⓥ【DIAL】or【FUNC】+【DIAL】	☞13
TSの変更	①【TS】 ②【DIAL】	☞13
音量の調整	【VOL▲】or【VOL▼】	☞10
受信モニター	【SQL】	☞14
スケルチレベルの調整	【SQL】+【DIAL】	☞14
バンクの切り替え	Ⓜ【FUNC】+【DIAL】	☞17
M-CHの呼び出し	Ⓜ【DIAL】	☞17

操作の内容	スイッチ操作	参照
M-CHの選択状態	【FUNC】+【V/M】	☞18
M-CHへの書き込み	【FUNC】+【V/M】長押し	☞18
M-CHの内容をVFOへ移す	Ⓜ【BAND】	☞20
セットモードにする	【V/M】長押し	☞35
セットモードの項目選択	【DIAL】	☞35
セットモードの内容設定	【FUNC】+【DIAL】	☞35
セットモードの解除	【V/M】	☞35
キーロックのON/OFF	【FUNC】+【LOCK】	☞49
アッテネーターのON/OFF	【FUNC】+【SQL】	☞15

操作の内容	スイッチ操作	参照
受信モード(電波型式)の切り替え	【MODE】 ※1Mバンドは操作できない	☞12
VFOスキャンのスタート/ストップ	Ⓥ【FUNC】+【VOL▲(▼)】	☞22
バンド/フルスキャン、スキャン範囲の選択	Ⓥ ①【FUNC】+【BAND】 ②【DIAL】で選択	☞23
メモリースキャンのスタート/ストップ	Ⓜ【FUNC】+【VOL▲(▼)】	☞22
メモリーバンク/フルスキャンの選択	Ⓜ ①【FUNC】+【BAND】 ②【DIAL】で選択	☞28
プライオリティスキャンのスタート/ストップ	①セットモード ②【DIAL】で"PRIO"にする ③【FUNC】+【DIAL】で"ON"選択 ④【V/M】でスタート ⑤もう一度【V/M】でスキャン解除	☞30
トーンスキャンのスタート/ストップ	【FUNC】+【VOL▲(▼)】長押しでスタート 短押しでストップ	☞33
プログラムCH(スキャンエッジCH)の呼び出し	①【FUNC】+【V/M】 ②【FUNC】+【DIAL】でプログラムCH表示にする ③【DIAL】	☞23
メモリークリア 例.CH-3をクリアする	Ⓜ ①【FUNC】+【V/M】②【DIAL】でCH-3にする ③【FUNC】+【MODE】長押し	☞20
オールリセットのしかた	①電源を切る ②【FUNC】【BAND】【V/M】を押しながら【POWER】をON	☞50
パーシャルリセットのしかた	①電源を切る ②【FUNC】【V/M】を押しながら【POWER】をON	☞50

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本　　社	547-0002	大阪市平野区加美東6-9-16	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0003	大阪市平野区加美南1-8-35	TEL 06-793-0331
広島営業所	733-0033	広島市西区観音本町2-10-25	TEL 082-295-0331
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。